

◆ 平成 29 年度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：NPO 法人 かわごえ里山イニシチブ

20A-28

代表者：代表理事 増田純一

URL : <http://kawagoesatoyama.ciao.jp/>

1. 活動が必要とされた状況

活動基盤として、ラムサール・ネットワーク日本が国連の生物多様性締約国会議 (COP10) の達成年度である 2020 年を目標として取り組んでいる「田んぼの生物多様性向上 10 年プロジェクト」の行動計画を基本に活動しています。

農薬は労働力を削減し、効率的なお米作りに劇的な効果をもたらしたという反面、特にネオニコチノイド系や浸透性の農薬は、生きものの生態系に影響を及ぼしているだけでなく、脳の発達途上にある子供たちへの脳神経に影響を及ぼし、発達障害、学習障害、自閉症、注意欠陥多動性障害などを引き起こしています。

また、これらの農薬を含んだ田んぼからの水は河川に流れ、やがては飲み水となり自分たちの体に循環していきます。

このような状況から、田園風景の景観づくりや環境にやさしいお米づくりを中心に農薬や化学肥料を使わない農法の実践を行い、生物多様性豊かな田んぼの普及・啓発に寄与する目的で活動しています。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

平成 28 年 3 月 18 日の「第 1 回ポイント研修 (20 名)」を皮切りに「生きもの育む田んぼプロジェクト」を開始し、主な活動として 3 月 23 日温湯消毒 (6 名)、5 月 20 日食べる生き物調査 (植物編：35 名) と続き、6 月 10 日田植え (55 名)、6 月 24 日生きもの調査 (動物編：75 名) を行いました。米作りの他、田んぼの文化伝承としてマコモでお盆飾り



生きもの調査 (植物編)



田植え集合写真

や正月飾り作り、環境保全型農産物の『マコモ』栽培と連携し川越のそば商青年組合とのコラボで平成 28 年同様にスタンプラリーを開催しました。

大きな、組織的な変化としては NPO 法人になる事ができました。

3. 活動の成果

ご支援頂いている「生きもの育む田んぼプロジェクト」をスムーズに運営することが出来、そして、この活動が徐々に地域に浸透し始め同じ農法の無農薬・無化学肥料の田んぼが 4 反増えました。また、会員やイベント参加者、賛同者が増え、FB の沢山のいいねやり一ちをもらい生物多様性豊かな田んぼの環境の普及や啓発に弾みがついています。

生きもの調査は大好評で大勢の子供たちに生きものの面白さや環境の大切さを体感してもらうことができました。

4. 今後に残された課題

平成 29 年は入間川の濁水に悩まされ、深水管理による抑草ができませんでした。今年は念願の井戸が出来たので本格的な抑草ができるかどうかが課題となります。また、活動の継続性のために、壊れたら終わりという農業機械の整備経費の問題があります。